

慶應義塾大学古楽アカデミー・オーケストラ・小合唱 ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部



© Wolfgang Koglin

■ 慶應義塾大学古楽アカデミー

慶應義塾大学古楽アカデミーは、慶應義塾大学教養研究センター設置科目「身体知・音楽」の成果発表の場で用いている演奏団体名です。授業そのものは、日吉キャンパスの全学部 of 学生を対象とした、実践的な音楽の科目で、器楽クラス（古楽オーケストラ）と声楽クラス（小合唱）が開講されています。器楽クラスの目的は、17・18世紀に使われていた楽器（またはその複製）を用いて、その時代に書かれた音楽を、当時の演奏習慣に基づいて演奏し、ここから音楽文化を深く理解していくというものです。バロック時代の作曲家たちは、未来の楽器を想定して音楽作品を創っていたのではなく、彼らが普段接していた楽器のために曲を書いていた。当時の音楽を現代の楽器を用いて演奏することは容易なことです。バロック時代の作曲家たちが発していたメッセージを真に理解するにはやはり、音楽が書かれた時代の楽器（ピリオド楽器）に触れる必要があります。音楽専科の学生を対象としていないこのような取り組みは、数ある日本の大学の中で慶應義塾大学が、国内ではおそらく唯一の存在であると思われます。声楽クラスでは、16世紀から18世紀の間に書かれた合唱作品を、少人数で歌いながら学ぶことを目的としています。大学でのサークルや高校までの合唱活動で経験しないような、しかしながら、音楽の歴史を深く理解するには不可欠である、ルネッサンスからバロック時代の声楽作品を探求しています。

■ ヴェルニゲローデ放送青年合唱団/ヴェルニゲローデ州立音楽教育高等学校

ヴェルニゲローデ放送青年合唱団は、ドイツのトップクラスの混声青年合唱団の一つで、ヴェルニゲローデ州立音楽教育高等学校の11年生と12年生で構成されています。ヴェルニゲローデは、ドイツの中心部、標高1,142mのブロッケン山の麓に位置する街で、歴史ある市庁舎、木骨造りの家屋、ヴェルニゲローデ城などが観光客に人気です。ヴェルニゲローデ放送合唱団は、1951年にフリードリヒ・クレルによって設立されました。多数のテレビや映画の収録、およそ2,000件のラジオや録音媒体のタイトルの数々が、この合唱団の芸術的地位を物語っています。1973年以来「ヴェルニゲローデ放送青年合唱団」の称号を冠し、ドイツ統一後はドイツ国内の合唱コンクールにおいて何度も入賞しています。2021年にロベルト・ゲーストルを指揮者に迎え、シュッツやモンテヴェルディなどによるバロック音楽作品からアカペラのジャズやポップスまで、幅広いジャンルを取り扱ってきています。国外公演も積極的に取り組んできており、1992年のイタリア、ベトナム、アメリカでの公演や2006年および2023年の日本、ならびに2023年春のイスラエルでの公演は、合唱団の歴史におけるハイライトとなっています。

慶應義塾大学古楽アカデミー オーケストラ・小合唱 ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部 再来日記念合同演奏会

＜ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部との再共演＞

慶應義塾大学古楽アカデミー・オーケストラは、2023年秋に、ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部が徳島県鳴門市を特別訪問し、その後横浜市を訪れた際日吉キャンパスにおいて、バッハの《マニフィカト》作曲300年を記念する演奏会を催しました。

2025年10月に、ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部が再び来日することとなり、慶應義塾大学古楽アカデミー・オーケストラは、ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部と再び共演することになりました。

出演：慶應義塾大学・古楽アカデミー・オーケストラ（ピリオド楽器使用）・小合唱
ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部
ロベルト・ゲーストル／石井 明（指揮）
神戸佑実子（ソプラノ）

Program

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル（1685-1759）
《メサイア》 第1部より合唱曲 ほか

2025年10月12日（日）

18時開演（17時半開場） 入場無料・事前申込不要

場 所：藤原洋記念ホール（慶應義塾大学日吉キャンパス協生館内）
日吉駅（東急東横線・目黒線・新横浜線／横浜市営地下鉄グリーンライン）徒歩1分
主 催：慶應義塾大学教養研究センター／慶應義塾大学日吉音楽学研究室
問合せ：慶應義塾大学日吉音楽学研究室 045-566-1359 <http://www.musicology.hc.keio.ac.jp/>

